

2021年1月10日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

ヨナ書 3：1～10

ルカによる福音書 11：27～32

「むしろ、幸いなのは」

<幸いな人とは>

ルカによる福音書の11章では、はじめにイエスさまが「主の祈り」を弟子たちに教えて下さいました。イエスさまは、神の御子であり、ご自分の十字架と復活によって、弟子たち、わたしたちの罪を赦し、神の子となる道を拓いて下さる救い主です。だからこそ、イエスさまは、わたしたちに天地の造り主なる神さまを「父よ」と呼ぶように。いつも愛を注ぎ、恵みを与えようとして下さる父なる神さまに、安心して、信頼して、すべてを求めて祈るように。そうやって「主の祈り」を覚えて下さったのです。

そして14節からは、その神の御子であり、救い主であるイエスさまが、ある人の悪霊を追い出しておられたことが語られています。

それを見ていた群衆は驚嘆しました。しかしそれらの人々の中には、他に二つの反応がありました。一つは15節にあるように、イエスさまは悪霊の親玉の力で悪霊を追い出しているんだ、と言う人がいたこと。二つ目は16節にあるように、イエスさまを試そうとして、天からのしるしを求める者がいたことです。この、天からのしるしを求める者へのイエスさまのお答えが、今日の29節以下に語られています。

その前に、まず一つ目の15節にあった、ある人が「イエスさまは悪霊の頭ベルゼブルの力で、悪霊を追い出している」と言ってきたことに対する、イエスさまのお答えを振り返りたいと思います。

イエスさまはまず、そんな悪霊の内輪もめのようなことはあり得ない。御自分は神の指で、神の力で、悪霊を追い出しているのだ、と語られました。

そして、わたしたち人間は何の抵抗できる力もなく、武装した強い悪霊に屋敷でしっかりガードされているようなものだが、イエスさまは神の力で、もっと強い力で悪霊を襲い、わたしたちを分捕り物としてご自分のものとして下さるということ。イエスさまは神の力で、わたしたちを悪霊の支配から、神のご支配へと移して下さいということが語られました。

そして、24節以下では、そのようにして悪霊の支配から解放された後の、わたしたちの心の状態が語られていました。

イエスさまが、わたしたちを悪霊の支配から解放して下さいても、わたしたちの家から悪霊を追い出して下さっても、その後には家が空っぽなら。あるいは、自分や他の何かが家の主人となっているならば、悪霊は戻って来て、強い力で、また簡単にわたしの心を支配してし

まうのです。

だからわたしたちは、わたしたち自身の心の家を、空っぽのままにするのではなく。弱い自分を、自分の家の主人とするのではなく。ましてや他の何ものをも主人とするのではなく。救い主であるイエスさまにこそ。強い神の力で、悪霊の支配を打ち破って下さるイエスさまにこそ、わたしの主人として、わたしの内に宿っていただき、イエスさまの神の力によって、これからも守っていただかなければならないのです。

だから 28 節で、イエスさまはこのように言われました。「幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」神の言葉を聞くこと。つまり、神さまから遣わされた神の御子イエスさまの救いを信じ、受け入れ、イエスさまを、自分の主人として迎えること。そして、イエスさまのもとに留まり、イエスさまのご支配の中に留まり、イエスさまに守っていただきつつ、神さまと共に歩んでいくこと。

それが、神の言葉を聞いて守る、ということであり、そのような人こそ、どんな人よりも幸いなのだと教えて下さったのです。

<天からのしるし>

さて、今日はこの流れの中で読まれるべき箇所です。29～32 節では、この 28 節の、「神の言葉を聞き、それを守る人」とは具体的にどのような人であるか、ということが語られていると共に、16 節の「イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた」とあった、このことへのイエスさまのお答えが語られています。

まず、群衆の中で、イエスさまを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた、とはどういうことでしょうか。

それは、イエスさまが今、人々の前で神の言葉を語り、神の力によって悪霊を追い出したり、奇跡の御業を行なっておられるけれども、それだけでは、イエスさまが神の国を実現して下さる方であるとは信じられない、ということです。もっと、天からの、超自然的な奇跡を起こして、イエスさまが神さまに遣わされた救い主だという証明をしてほしい。もっと、自分が納得するものを見せて欲しい。そういう人がいた、ということです。

確かめて、自分の納得がいくこと。自分でちゃんと理解できること。わたしたちはそういったものは、安心して受け入れ、頼ることが出来ます。しかし、ただ聞いたことを信頼して、受け入れる。そこにすべてを委ねる。それは、とても難しいと感じます。

だから、大丈夫という保証が欲しい。信頼に足るかどうか試したい。納得して安心するための材料が欲しい。イエスさまが、神のご支配を実現して下さる方であるということについても、もっと確かな証拠が欲しい。そう求める人がいたのです。

そんな思いは、わたしたちにも、思い当たることがあるのではないのでしょうか。

しかしそれは、神さまに対する人間の態度ではありません。これは、神の御子に対して、

人間がテストをして、それに合格すれば、救い主と認めてもいい、信じてやってもいい、という態度です。神さまが、自分の思いに合う仕方で答えてくれるならば、自分を納得させてくれる証拠をくれたら、受け入れても良い。イエスさまを試そうとして、天からのしるしを求めるとは、そういう態度のことなのです。

それに対してイエスさまは、「今の時代の者たちはよこしまだ」と言われました。

「よこしま」と訳されている言葉は、「悪い」という言葉です。今の時代、つまり、イエスさまが神さまに遣わされ、人々に面と向かって出会って下さり、御言葉を語り、御業を行ない、神の支配を告げて下さっている、この時代の者たち。しかし、イエスさまを受け入れない。御言葉を素直に聞かない。むしろ、人々は天からのしるし、自分が満足するための奇跡を求め、神の御子を試そうとする。それはよこしまだ。悪い。そう、イエスさまは言われるのです。

<ヨナのしるし>

そして、イエスさまは語られました。「今の時代の者たちはよこしまだ。しるしを欲しがすが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない。つまり、ヨナがニネベの人々に対してしるしとなったように、人の子も今の時代の者たちに対してしるしとなる。」

ここに出て来るヨナとは、今日の旧約聖書で読まれたヨナ書の主人公です。今日は第3章だけを読みました。内容は、まずヨナが、自分たちイスラエルの敵国であるアッシリアのニネベという町に行って、神さまの御言葉を伝えるようにと命じられます。ニネベは悪で満ちていました。それで、神さまはお怒りになり、ニネベを滅ぼそうとしておられる、ということヨナに告げさせようとしたのです。でもヨナは、ニネベは敵の町なので、別に滅んでもいいと思っているし、ニネベのためになんて、どうしても行きたくありませんでした。しかし、結局はニネベに遣わされて、神さまの御言葉を告げることになったのです。

そしてヨナが、ニネベがその悪のために滅ぼされる、と神さまの御言葉を告げると、なんとニネベの町の人たちは、その神さまの御言葉を聞いて信じ、王さまをはじめ、すべての人たちが悪を離れ、悔い改めたのです。それで神さまは、ニネベを滅ぼすことを思い直された。ニネベの人々を憐れんで、惜しんで、赦された。そういうお話です。

ですから、イエスさまが30節で「ヨナがニネベの人々に対してしるしとなった」と言われた、この「しるし」。これは先程、人々が求めたような奇跡のことではなくて、ヨナがニネベの人々に対して、神の言葉を語った、説教を語った、ということ「しるし」と言っているのです。ヨナはニネベで奇跡を起こしたりしたわけではありません。ただ、神の言葉を告げ、説教をしたのです。それが、「ニネベの人々に対するヨナのしるし」です。

イエスさまが「ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない」と言われたのは、今の時代の人々が欲しがっているような天からのしるし—神を試し、自分が信じるために求める

奇跡—は与えられない。ヨナのしるしのほかには。つまり、人々には、神の御言葉の説教が、与えられるだけである。そう言うておられるのです。

そして、ヨナがニネベの人々に説教を語ったように、今の時代の者たちには、人の子、つまりイエスさまが説教を語っておられる。それこそがしるしとなるのだ、ということです。

神の御言葉の説教。これこそが、今の時代の人々に与えられている、しるしである。イエスさまが語られる御言葉こそが、神さまのご支配、神さまの救いを示すもの。イエスさまが救い主であることを示すものなのです。

<聞いて信じた人たち>

そして、それに続いて、31節には南の国の女王のことが、32節にはニネベの人々のことが語られています。彼らは、天からのしるしを求めず、言葉を聞いて信じた人々です。

南の国の女王とは、列王記上10章や歴代誌下9章に語られている、シェバの女王のことです。異国の地に住むシェバの女王は、イスラエルの王、ソロモンの知恵の噂を聞いて、はるばる旅をしてソロモンに会いに来ました。風の便りだけを聞いて、それを信じ、実際に地の果てからやって来たのです。

そして、ニネベの人々。先ほどお話ししましたように、彼らもまた、ヨナの説教をただ聞いただけで、それを信じ、悔い改めました。彼らは、神さまが自分たちの悪に対して怒り、滅ぼそうとしておられる、ということを知り、その証拠を出せと言ったり、奇跡を見せろと言ったりはしませんでした。ただ、ヨナが語る神の言葉、ヨナの説教を聞いて、それを信じ、悔い改めたのです。

南の国の女王も、ニネベの人々も、聞いたことを信じて、受け入れ、それに応じたのです。

ところが今、ここに神の御子イエスさまが立っておられる。救い主が来られて、神の言葉を語っておられる。ここに、シェバの女王が聞いた、ソロモンの噂にまさるものがある。ここに、ニネベの人々が聞いた、ヨナが語る説教にまさるものがある。ここに今、救い主であるイエスさまご自身がおられ、神の御言葉が語られ、しるしとして示されている。

それなのに、今、イエスさまの目の前にいる神の民、ユダヤ人たちは、神の言葉を聞いても、神の御子の説教を聞いても、信じない。受け入れない。それどころか、自分たちが満足するための天のしるし、神さまを試すような、超自然的な奇跡を求めている。

だから、イエスさまは、今の時代の者たちはよこしまだ、と言われたのです。

だから、裁きの時に、聞いて素直に従った南の国の女王と、ニネベの人々が、今の時代の人々、イエスさまの御言葉を聞いても受け入れない人々を、罪に定めるだろう、と言われたのです。

ただ聞くだけで、信じて遠くからやって来たシェバの女王。あるいは聞くだけで、信じて悔い改めたニネベの人々。彼らの方が、異邦人、異教徒であるにも関わらず、今ここで、目の前におられる、神の御子イエスさまの御言葉を信じない神の民よりも、遥かに神さまの御言葉を聞き、それを守る、幸いな人々なのです。

イエスさまは言われました。「ここに、ソロモンにまさるものがある。」「ここに、ヨナにまさるものがある。」

シェバの女王が聞いたことより、ニネベの人々が聞いたことより、はるかにまさるものが、ここにある。今ここに、わたしがいるではないか。神に遣わされた救い主であるわたしが、あなたたちと出会い、救いを知らせ、神のご支配を告げ、あなたたちを神さまのもとへ招いているのではないか。神の言葉を聞いて、信じなさい。救い主として来たわたしを受け入れなさい。「幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人である。」

イエスさまは、このように語っておられるのです。

<神の言葉を聞いているわたしたち>

神さまは、積み重ねられた悪によって、もう滅ぼそうとまで思われたニネベにさえも、ご自分の思いを伝えるためにヨナを遣わされました。そして、ニネベの人々が神さまの御言葉を聞いて、神さまが彼らを、愛し、憐れみ、心から惜しんで下さっていることを知ること。そして、彼らとその神さまの思いに答えて、悪から離れ、神さまに立ち帰ることを、願われたのです。ニネベの人々が神さまの御言葉を聞いて悔い改めることを、心から望んで下さり、赦したい、救いたいと望んで下さり、神さまはヨナを遣わして、働きかけて下さったのです。

そして神さまは、今の時代には、今ここにいるわたしたちには、ご自分の御子イエスさまを遣わして、御言葉を与えてくださっています。

わたしたちには、イエスさまの御言葉の他には、しるしは与えられません。イエスさまの御言葉しか、ありません。しかし、イエスさまの御言葉こそが、ある。それ以上に求めるべきものがない、恵みに満ち溢れた、神さまの愛の御言葉こそが、ここに、あるのです。

イエスさまの御言葉とは何でしょうか。それは、わたしたちをお造りになった神さまが、わたしたちを愛して下さっているという言葉です。わたしたちを憐れみ、滅びるのを惜しんで下さり、神さまの御許に帰ることを望んで下さっているという言葉です。あなたの罪を赦すと言って下さる、あなたに新しい命を与えると言って下さる、そのような御言葉です。

そして、イエスさまご自身が、その御言葉を実現して下さいます。御自分の十字架の死によって。そして、神の力で復活させられることによって。イエスさまの御生涯、その命のすべてで、イエスさまは神さまの愛の御言葉を語って下さったのです。

イエスさまの十字架と復活。これが今、わたしたちに与えられている神さまの御言葉です。この神さまの御言葉に、わたしたちを救う力があります。信仰を与える力があります。聞いた者を、神さまに立ち帰らせ、罪から救い、神の子とし、新しくする力があります。

「幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人である。」

この、神さまの御言葉が語られているのです。この御言葉をこそ、受け入れ、信じなさい、と招かれているのです。

わたしたちは、何も根拠のないものを、目を瞑って、黙って信じろ、と言われていたのではありません。父なる神さまは、先に、イエスさまによって、恵みを用意して下さい、救いを与えて下さり、罪の赦しを宣言して下さい、さあ、ここに安心して来なさい、と言って下さっているのです。イエスさまが両手を広げて、待っていて下さる。ここに救いがあるから来なさい、と呼んで下さっている。それを聞いて、そこに行くのです。

わたしたちは、そこまでして下さい神さまの愛を試すのではなく。神さまに従えないことを、神さまがわたしを納得させて下さらないからだ、神さまのせいにするのではなく。自分が満足するしるしや、自分の思いに合うことを望むのではなく。

ただ、イエスさまが十字架の死と復活において示して下さい、御生涯すべてで語って下さった、神さまの大きな愛と、深い憐れみの御言葉をこそ、聞いて、受け止めたいのです。この他に、わたしたちに救いを知らせるものはありません。

「幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」

わたしたちも、その幸いにあずかる者となることができますように。

【お祈り】

わたしたちを愛して下さい、天の父なる神さま

わたしたちに神の言葉を与えて下さり、感謝いたします。イエスさまの十字架と復活の言葉。神さまの愛の言葉。それを聞くことができることを、心から感謝いたします。

どうかわたしたちが、神さまの言葉を、イエスさまの救いを、素直に聞き、受け入れることができますように。神さまの言葉に救われ、新しくされ、イエスさまと共に生きる者となることができますように。神の言葉を聞き、それを守る、このもっとも大きな幸いに、与る者となることができますように。どうか、聖霊によって導いて下さい。

イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン